

試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名：北海道の輪換畑を利用したイチゴリレー苗の生産技術 3．北海道における苗の生産法			
<p>[要約] 秋の定植は越冬時に株が枯死することなく、苗の増殖に有効である。また、雪解け後は春植え、秋植えとも保温、風除けを兼ねて、遅霜の心配が無くなるまでマルチと有孔ポリフィルムで被覆する。徒長防止のために、目標となる子苗数が確保できた時点で、発達した第一次子苗を除去する。</p>			
キーワード（専門区分） 栽培		（研究対象） 野菜類 - イチゴ	
（フリーワード） イチゴ、育苗、省力、輪換畑、北海道			
<p>実施機関名（主査） 農業総合研究センター生産技術部野菜研究室 （協力機関） 農業総合研究センター イチゴリレー苗プロジェクトチーム、 安房農業改良普及センター、安房いちご苗委託組合、 北海道空知南東部地区農業改良普及センター （実施期間） 2001年度～2003年度</p>			

[目的及び背景]

土壌病害の発生がみられず、省力的なイチゴ育苗が可能な北海道の輪換畑において、効率的な増殖技術確立を行う。

[成果内容]

- 1．栗山町の輪換畑において、親株を9月中旬に育苗圃に定植する（図1：秋植え）と、冬期の凍害は問題にならない上に、5月上旬定植（図1：春植え）に比べ、親株当たりの採苗本数は増加する（図2）。さらに、水稻を始めとする他品目との労力競合が減少する。
- 2．栗山町の輪換畑において、5月上旬から6月上旬までは、有孔ポリフィルムや不織布のトンネル被覆を行う。保温と風除けにより、採苗本数は増加する（表1）。また、極端な高温条件では、ランナー発生が抑制されるので、2重被覆は行わない。
- 3．リレー苗増殖で問題となる徒長（写真1）を防止するために、未発根苗率を30%以下にする（図3）。それには、目標となる子苗数が確保できた時点で、発達した第一次子苗を除去することが有効である。

[留意事項]

- 1．9月中旬に親株を定植する輪換畑では、前作として当年の水稻作付けはできないため、前年の水稻収穫後に麦を作付けるなどして、萎凋病の感染源となる雑草の発生に留意するとともに、長期的な圃場利用計画を立てる。
- 2．秋植えの親株は、冬期は無被覆とし、雪解け後すぐにトンネルで保温を行う。遅霜の危険性があるため、6月上旬までは被覆を続ける。トンネル除去までの春先に発生したランナーは順次ペーパーピン等で固定する。
- 3．未発根苗率は、親株からランナー伸長方向へ20cmのところからの50cm四方の範囲にある展開葉1枚以上の全子苗における、未発根の苗の割合を測定する。

[普及対象地域]

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

		1	2	3	4	5			6			7			8			9			10	11	12
						上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
秋植え	1年目																						
	2年目																						
春植え	1年目																						
	2年目																						

親株定植 (1年目 9月)

採苗 (2年目 5月)

トンネル除去 (2年目 6月)

ランナー留め開始 (2年目 6月)

トンネル被覆 (2年目 4月)

親株除去 (2年目 8月)

親株定植・トンネル被覆 (2年目 4月)

図1 イチゴリレー苗増殖受託の栽培暦

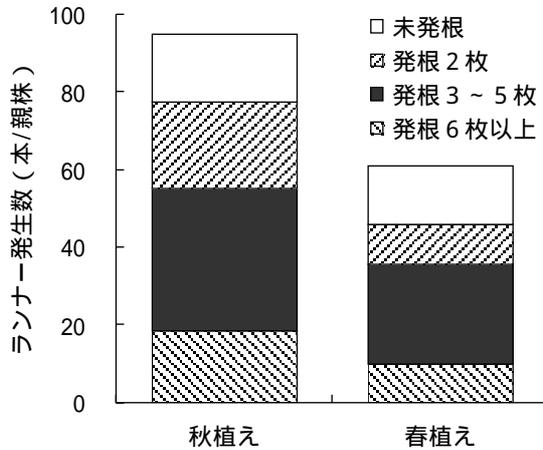


図2 定植時期が異なるイチゴリレー苗の採苗時のランナー発生数(「とちおとめ」)

表1 親株の保温方法が異なるイチゴリレー苗の採苗本数(「女峰」)

保温方法	発生本数 (本/株)	日最高気温 ()	日最低気温 ()
マルチ+トンネル+ベタがけ ^z	60	40.1	10.1
マルチ+トンネル	80	32.3	8.6
マルチ	63	24.6	8.1

^z マルチは黒色の厚さ 0.02mm、幅 95cm、ポリトンネルは厚さ 0.05mm、幅 180cm、開孔率 1.5% の有孔ポリエチレンフィルム、ベタがけは透光性不織布とした。

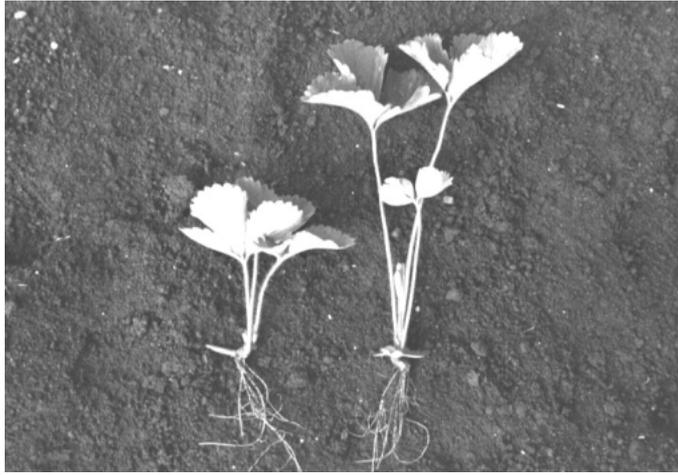


写真 1 徒長程度の異なるリレー苗

左：葉柄長率^z 57 % 右：葉柄長率 70 %

^z (葉柄長率) = (最大葉の葉柄長) / (最大葉の葉長) × 100 とした。

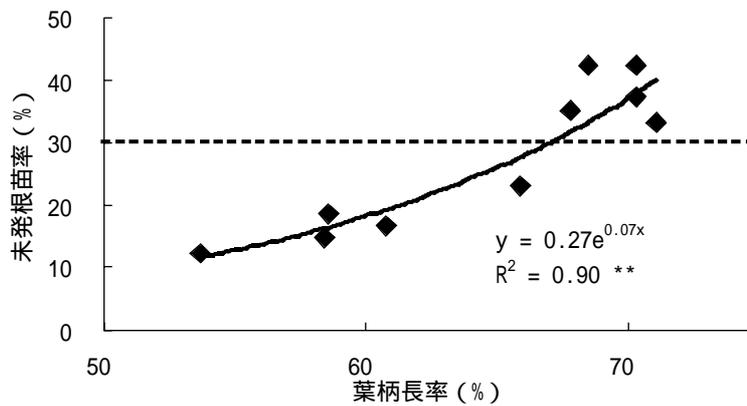


図 3 秋植え親株によるイチゴリレー苗の採苗期における葉柄長率と未発根苗率の関係
(「とちおとめ」)

[発表及び関連文献]

特になし

[その他]

平成 12 年度試験研究要望課題 (提起機関：安房農業改良普及センター)

緊急技術開発促進事業「課題名：北海道におけるイチゴリレー苗の生産技術の確立」